

宇部市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和6年8月1日(木) 13:30 ~15:30

2 場所 本庁舎3階3-3、3-4会議室

3 出席者(敬称略)

<運営委員>

	所属・役職	氏名	代理出席
商工団体	宇部商工会議所 会頭	杉下 秀幸	
企業	UBE株式会社 常務執行役員	高瀬 太	総務・渉外部 渉外グループ 今井 恵二郎
	セントラル硝子株式会社 執行役員 宇部工場長	森野 譲	
	西日本電信電話株式会社 山口支店長	西 一仁	副支店長 光本 幸夫
	株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長	柳屋 芳雄	監査役 藤本 哲憲
	ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長執行役員	酒田 義矢	欠席
大学等	国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長	田邊 剛	
	国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長	山田 陽一	
	国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長	稲葉 和也	
	独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長	金寺 登	
金融機関	株式会社山口銀行 執行役員 宇部支店長	大本 理恵	
	株式会社西京銀行 執行役員 宇部支店長	岡田 一夫	
	西中国信用金庫 宇部支店長	片岡 謙蔵	欠席
支援機関	地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長	小関 浩幸	
	公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長	福田 浩治	
自治体	山口県産業労働部長	高林 謙行	
	宇部市長	会長 篠崎 圭二	

<関係者>

Biomeca TriTech 合同会社 代表社員 陳 献 (オンライン参加)

<事務局>

産業経済部 部長 林 孝之、次長 村岡 和弘

成長産業創出課 課長 中村 勇一郎、副課長 川本 満隆、係長 清永 浩幸、主任 西郷 勝紀

4 内容

(1) 会長挨拶

(2) 成長産業の創出・育成に向けた取組報告

別紙、資料3により事務局（中村課長）が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(3) プロジェクト紹介

Biomeca TriTech 合同会社

代表社員 陳 献（オンライン参加）による事業内容説明

— 説明に対する質疑 —

(4) 意見交換

【運営委員の主な発言概要】

- ・ 山口県は医薬品原料の生産額が全国でも 1 位や 2 位。医薬品全体でも生産額が 10 年前の 12 位から 4 位までステップアップしている。
- ・ 若者が住み続けたいと思ってもらえるには良質な仕事に就くことが大事。社会減による人口減少を抑制し、地域経済の好循環につなげる必要がある。スタートアップ企業が成長し、稼ぐ力をつけないと政府が掲げる成長と分配の好循環が生まれない。
- ・ Biomeca TriTech 社の取組は学術研究機関が集積する宇部市ならではの取組。同社の事業とも連携できることを検討していきたい。
- ・ 中小企業が新しい分野に進出するとき、一番は資金の問題。山口県や宇部市が支援することで新しい分野に参入しやすい環境ができている。中小企業の中には様々な取り組みを進めたことで次の取引につながる情報が入ってくるという好循環も生まれている。
- ・ 宇部市の成長産業を創出するという取組は素晴らしい動きになっている。山口県を引っ張っていくような産業を作ってほしい。
- ・ スタートアップ時には補助金があると思うが、その後に事業を継続して企業として成長し続けることが大事。財務や税務の専門人材や営業人材を活用し、事業をマネタイズして儲けていくことが重要。
- ・ 展示会への出展など、多くのシーズを多くの会社とマッチングしていくことが大事。
- ・ 知的財産の保護に関しての支援制度が必要ではないか。
- ・ スタートアップ企業の資本政策をどうしていくか。技術開発においては補助金が有効であるが、インパクト型ではなく、ユニコーン型企業では資本政策が課題。今後、行政の支援でどこまで踏み込んでいくか考えていく必要があるのではないか。
- ・ 港などのインフラ整備は 10 年～20 年かかる。石炭火力はやめられないという中で、環境技術に特別枠をつくって、CO2 を原料にする環境系の取組を推進してもいいのではないか。
- ・ 協議会の中でテーマを決めて取り組んでいくようなものがあるのもいいのではないか。
- ・ 弊社では、全社的な業務改革・新たな価値創造に向けて DX の取組も進めている。
- ・ DX 推進補助金が非常に好評。予算面で企業としてはハードルになることがあるが、補助金がある自治体では導入のハードルが下がる。

- ・化学メーカー等でも DX で生産性の向上が大きく図れるケースもあり、中小企業でも応用可能なものがある。そういった支援も進めてほしい。
- ・デジタル関係はアメリカが席卷しているが、日本でもデジタルの新しいシーズがどんどん出てきて、大きくなってほしい。
- ・全国の大学・高専生は文系が非常に多く、エンジニアリング系は 17%程度しかいない。理系人材の数が世界に大きく負けている中で、DX 分野では非常に多くの求人があり、DX 人材として通用する人材を育成していく。
- ・高等教育に求められているのは、成長分野への組織転換。教育創造未来会議の提言では、今のままだと 2030 年に先端 IT 人材が 50 から 70 万人不足するといわれている。国はデジタルとグリーン分野への教育組織の転換を進めている。
- ・防災や減災に活用することやスマート農業に活用することを教える空間情報学やコンピュータと人間のインターフェースをどうデザインするかを教えるような人間情報学など、高度専門人材の育成に努めていく。

【宇部市長】

- ・令和 3 年度から始めた本市の成長産業の取組は、次のタームに入っているように思う。
- ・様々な技術・プロジェクトが生まれているが、全国に如何に広げていくか、今後の戦略もしっかり立てていかないといけない。
- ・財務や営業面における人材の活用や高度専門人材の育成も重要。現在はアドバイザー機関のアドバイスもいただいているが、地元の企業、金融機関や大学とも連携していくことが必要だと実感している。
- ・スタートアップ支援において、投資が入ってくるようになる。行政があまり握りすぎてもよくないと言われるが、VC をどう活用していくか、どう投資を呼び込むか、また、成長を地域にどう分配させていくかを他都市の事例などを参考に検討していきたい。
- ・「成長産業×コンビナート」の脱炭素化の取組については、非常に興味深い。関係機関の皆様と協議させていただき、本市ならではの取組の方向性を検討していきたい。
- ・今回いただいた御意見、御提言をしっかりと施策に反映させる。成長産業を創出していくことが、持続的なまちづくりを進めていく上で、非常に大切であると考えているので、引き続き、委員の皆様には、御意見、御協力をいただきたい。

今回御説明した協議会の事業内容等について、御了解いただけますか。

→ 異議なし

【配付資料】

- ・ 運営委員会委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 成長産業の創出・育成に向けた取組報告
- ・ 事業プロジェクト紹介 (Biomeca TriTech 合同会社)

資料 1

資料 2

資料 3

資料 4